

令和4年度 第9回三郷区地域協議会

次 第

日時：令和4年12月22日(木)午後6時30分～

会場：三郷地区公民館 2階 集会室

(全体：1時間20分程度を予定)

1 開 会

2 議題等の確認

3 報 告

(1) 地域活性化につながる新しい三郷地区公民館の在り方に関する意見書について (回答)

(2) 諮問事項 新市建設計画の変更について (通知)

(3) 三郷地区各種団体等との意見交換会開催結果について

4 議 題

(1) 自主的審議事項について

5 事務連絡

6 閉 会

【今後の日程】

令和4年度第10回三郷区地域協議会

令和5年1月31日(火)午後6時30分～ 三郷地区公民館 集会室

令和4年度第11回三郷区地域協議会

令和5年2月28日(火)午後6時30分～ 三郷地区公民館 集会室

上教社第5700号
令和4年11月7日

三郷区地域協議会
会長 竹内 浩行 様

上越市長 中 川 幹 太
(社会教育課)



地域活性化につながる新しい三郷地区公民館の在り方に関する
意見書について (回答)

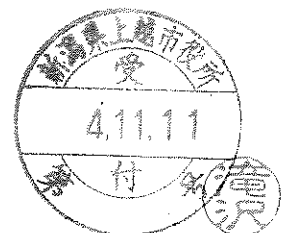
令和4年9月30日付けで提出のありました意見書について、下記のとおり
回答いたします。

記

施設の整備にあたっては、現在の施設規模・機能を踏襲することを基本とし、
現状において課題のある箇所について改善を図ることとしています。

施設設備の整備内容の詳細については、いただいたご意見等も踏まえつつ設計
業務を進める中で検討することとしています。地区公民館の施設設備として過
剰となる内容については、対応できかねることもありますので、ご理解ください。

いずれにいたしましても、施設の整備にあたっては、利用者をはじめ地域の皆
さんのご意見を伺いながら進めていきたいと考えております。

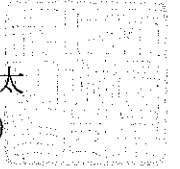


南部まちづくりセンター

上企第 37637-7 号
令和 4 年 11 月 10 日

三郷区地域協議会
会 長 竹内 浩行 様

上越市長 中 川 幹 太
(企画政策部企画政策課)

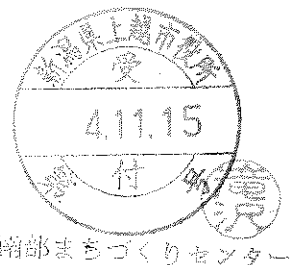


新市建設計画の変更について (通知)

令和 4 年 9 月 27 日付けで答申のあった諮問第 6 号新市建設計画の変更について、下記のとおりとしますので、お知らせします。

記

新市建設計画の変更について、計画を変更する手続きを進めることとします。
今後、パブリックコメント、県との法定の協議を経て、令和 5 年上越市議会 3 月定例会に議案を提出する予定です。



三郷地区各種団体等と三郷区地域協議会との意見交換会開催結果について

開催日時

令和4年11月29日（火）午後6時30分から午後8時10分まで

開催場所

三郷地区公民館 2階 集会室

開催目的

三郷区地域協議会が、自主的審議事項として審議してきた「地域活性化につながる新しい三郷地区公民館の在り方について」と「三郷区の郷土芸能無形文化財『春駒』の伝承について」の取組状況を三郷地区各種団体等へ報告する。

また、「地域活性化の方向性」の作成に向け、各種団体が日ごろ感じている地域の課題や、団体が考える三郷区の魅力について把握する機会とする。

出席者

- ・三郷地区各種団体等 14団体、13人（うち一人は2団体で兼職）
- ・委員：10人

議題

1 報告

地域協議会の取組状況について

①自主的審議事項について

「地域活性化につながる新しい三郷地区公民館の在り方について」

「三郷区の郷土芸能無形文化財『春駒』の伝承について」

②地域活性化の方向性について

2 意見交換

①各種団体等が認識している地域課題について

②三郷区の良いところ、魅力について

○地域協議会の取組状況について

①自主的審議事項について

「地域活性化につながる新しい三郷地区公民館の在り方について」

- ・資料No. 1、2により説明

質問なし

「三郷区の郷土芸能無形文化財『春駒』の伝承について」

- ・資料No. 3により説明

質問なし

②地域活性化の方向性について

- ・資料No. 4、5により説明

質疑応答

【民生委員・児童委員 吉田氏】

「地域活性化の方向性」については、各地域からアイデアを出してもらい、それを実際に決めるのは市だと資料に記載されているが、これまでの地域活動支援事業との関係性はどうなるのか。

【事務局】

「地域活性化の方向性」の作成主体については、資料No.4にも記載されているように、地域協議会である。

地域活動支援事業は、今年度をもって廃止となり、現在、「地域独自の予算」というものが新たに動いており、団体より提案をいただいて予算要求していく流れになっている。それは市で予算を組んでいくものになるため、地域協議会には「地域活性化の方向性」を作成していただきたい。その中で、地域協議会から、地域団体の方々の意見も伺いたいということになったため、今回、意見を伺う場を設けた。

【民生委員・児童委員 吉田氏】

地域活性化のためには、各地域が独自で取組むべきものもあるが、これは方向性を出して企画し、実際に活動することになると組織や予算等、いろいろなことが絡んでくると思うが、その辺りがよく見えない。議論することはよいが、各地域でやれることは限られている。実際に取り組んで何かをやるということになると、いろいろな絡みが出てくるが、どこまで実効性のあるものになっていくのか、どこまで市として応援をしてもらえるのかなど、漠然としている。アイデアを出させて、企画するのは市だと書いてあったが、方向性がよく見えない。

【事務局】

「地域活性化の方向性」の作成の目的は、資料No.4の「1 『地域活性化の方向性』の作成目的」のところで、「委員間の認識の共有」「地域協議会と市の認識の共有を図る」「市の取組の企画の参考とする」というところが狙いになる。これを基に、市で何かの取組をするといった狙いで作るものではない。作成した「地域活性化の方向性」に対して、市が取組の企画の際に参考とさせてもらうことになる。

【三郷地区体育振興会 小竹会長】

資料No.4の「元気事業」とは具体的にどのような事業のことを言うのか。

【事務局】

「元気事業」とは、地域協議会が自主的審議事項を進める中で、市に対して「こういった事業をお願いしたい」ということで提案できる制度である。この「元気事業」は、現在は「地域独自の予算」に置き換わっており、実際に事業の実施主体となるのは地域団体である。

【三郷地区体育振興会 小竹会長】

事業を動かしていくのは人なので、まずは関わっていく人をいかに育てていくのか、リーダー、もしくは若い人たちのいろいろなアイデアを一つにまとめられるような組織が必要だと思う。いろいろな得意分野を持っている人材の発掘と、そういった人たちを巻き込んで、「面白いことをやってやろう」というような人を集めながら、スケールアップし、ゆくゆくはこの地域にどういったことができるのか、この地域の実情に少しずつリンクできるものを吸収していくような流れのようなものがなければ、「どうするのか」という漠然とした話になってしまう。すぐに「こうしましょう」という話にはならないと思う。

【竹内会長】

その方向性を示すのが「地域活性化の方向性」という認識を持っている。漠然とするものが、「地域活性化の方向性」で示されていけば、それに向かって進んでいける協議をしていけばよいということにもなる。そのためのスローガンであり、それを達成するための構成要素が出てくる気もする。

【三郷地区農政対策協議会 尾崎会長】

もし、「地域活性化の方向性」の構成要素で地域資源のPRや、観光といったものが出てきた場合、具体的にどのような団体が、どのように進めていくのか。

【事務局】

完成した「地域活性化の方向性」に関しては、先ほども申し上げたとおり、市の企画の取組の参考とすることになる。実際に取組を実施していただくのは地域団体が中心になるが、それに相応しい団体に地域協議会として取組をお願いするという方向になる。

【三郷地区農政対策協議会 尾崎会長】

「地域活性化の方向性」については、「政策に関する参考にする」という程度のものでしかないということなのか。それを政策にする、ということではないのか。

【事務局】

資料No.4の「1 『地域活性化の方向性』の作成目的」というところに記載があるが、お願いしている事務局側としても、目的からすると、負担いただく中で作成していただくことは心苦しいところではあるが、今の時点では、その「(1)」の中の「各地域協議会及び総合事務所、まちづくりセンターの共通認識」とするものである。また、市が取組を何か考える際に、「三郷区のスローガンはこうなっている」と参考にさせていただくというところに今は留まっているので、ご理解願いたい。

【民生委員・児童委員 吉田氏】

何となく漠然としていて、具体的に意見が出た先にどうなるのか、はっきりしない。「参考」程度のものをつくっても、一体、行政は何をしてくれるのか。魅力は魅力でよいが、もっと漠然とした不安というか、どこの市町村でもそうだが、少子高齢化というか、子どもや働き手の人数が少なくなり、高齢者が増えている。この中で「活性化」といっても、非常にやりづらい。

少子高齢化や空き家問題、後継者問題等、生活に大きく絡むような問題を皆抱えている。市全体として具体的にこれらの問題をどうすればよいのか掲げてもらい、「市の方針はこうだから、残りは地域としてやれることはやって欲しい」と言うなら分かるが、「地域活性化のアイデアを出して、方向性を決めなさい」というのは、丸投げというか無責任な気がする。

【竹内会長】

スローガンというかたちでいく場合、ある程度、地域で揉んでいかなければ、市もそれを参考に予算化することはなかなか難しいと思う。

今後、「地域独自の予算」ということで、来年度から新しい予算化がされていくが、それは地域団体と行政が一緒になって、問題解決のために動いていく。そのために予算化していく方向に変わってきている。

元気事業についても、行政と地域団体が絡み、お互いに認識を持ちながら事業を遂行していくためのものを立ち上げていくようになってきている。飽くまでも地域が主体であり、行政は丸投げというわけではないが、中川市長は、地域創生ということで「地域」ということを言っている。やはり地域が動かなければ、市も動かないところもある。

例えば、牧区であれば、どのようなかたちで「おいしい水の恵み」のPRをしていくのか、地区でどういう団体が、どういうかたちで事業化をして予算化を市に向けてくるのか、ということも、まだこれからという段階だと思う。三郷区でもそのようなものを作っていかなければならない。「三郷地区は何もない」というわけではない。それをこの後、皆で協議していければよい。

○意見交換

①「各種団体等が認識している地域課題について」

【三郷地区体育振興会 小竹会長】

地域のイベントを主催する際、地域住民には回覧で情報提供しているが、残念ながらその回覧をよく見てもらえず、どうしたらよいのかと悩んでいる。どうすれば回覧をよく読んでもらえて、参加に結びつけられるのか、非常に悩ましいところである。

地域住民の関心がないのであれば、当振興会に「もっと機会をつくって欲しい」「こんな企画をして欲しい」等、意見をいただけるとよいが、なかなかそういう機会もない。是非ともこういう機会に意見をいただいて、健康に対する要望や意見などを聞かせていただき、当振興会の活動に少しでも役立てていきたい。

【竹内会長】

どこの会もそうだが、広報チラシを回覧しても一日で戻ってきてしまうという話も聞いている。それもまた、各団体の悩みなのかと感じている。

【三郷まちづくり振興会 平田会長】

我々の努力が足りないのかとは思いますが、私は、回覧や市の広報等、配布物の一面をはぐった中に、三郷地区に絡んだものは優先的に全部入れ、先に町内会の人たちから見てもらい、何とか参加をお願いしたいという気持ちでやっている。だが、それでも参加が少ないのが実態である。それだけ地域の皆さんの関心がないのかと痛感している。

このような会の組織というところ、年配の人が中心になってくる。若い人たちの意見も取り入れたいが、なかなか若い人が推薦されない。年配者の考え方は古く、若い人たちは新しい考えを持っていると思う。その辺りを相互に詮索しながら進めることが大事かと思う。

【民生委員・児童委員 吉田氏】

民生委員という立場上、高齢者と接する機会が割合としてかなり多かったが、まちづくり振興会にお願いがある。

令和4年の計画で、新しい項目が六つくらいあり、高齢者のためのいろいろな企画を計画する、検討委員会を作って推進する、といったものがあつたと思うが、高齢者を対象にした具体的な動きが分からない。幹部の方たちで検討しているのだと思うが、まだ表面化されてきていないのが残念である。

民生の組織については、和田地区と三郷地区は一つであるが、和田地区では「二水クラブ」というものがあり、そこはかなり活発に、高士地区と勝るとも劣らない活動をしている。そういったところと比べると、三郷地区に住んでいる高齢者は、はっきり言って気の毒だと思う。そのような交流の機会がなく、実際に機会を設けても、参加する人は少ない。

ただ、少なくとも、機会を設けて継続していくことは良いと思う。そうすれば、もしも自分がそういった場に出たいという時に、年に1、2回でもよいが定期的にやっていたら、引きこもりにならず、健康寿命を延ばすといったことができるのではないかと考えている。例えば、「すこやかサロン」にしても、三郷地区はほとんどが近隣の高齢者だけであるが、高士地区や和田地区では遠方の高齢者も参加できるように送迎付きとのことである。

また、買い物ツアーは、もっと高頻度にしてもよいと思う。三郷地区でも買い物ツアーは行っているが、特定の人しか参加しない。

あとは「高齢者見守り支援」である。だんだんと高齢者のみの世帯や、高齢者の一人暮らし等、そういった家庭が増えてくると、万が一のことを考えて、本人の希望もあると思うが、見

守り支援を広く行われている。

「老人会組織の再編成」が、まちづくり振興会の計画の中にあったかと思うが、計画としては非常に充実していると思った。具体化のところでどうなっているのか、機会があれば教えていただきたい。

【竹内会長】

他の地区と違い、高齢者の問題に関することについては、三郷地区には特化した団体がないという現状がある。意見としていただきたいと思う。

【三郷長生会 小竹幹事】

かなり前に三郷地区の老人会組織のうち、4分の3が解散してしまった。今、残っているものが三郷長生会であり、下稲塚と下四ツ屋で構成されている。他の老人会組織は、高齢者になると委員になる人がいないため、解散したというようなことを聞いている。

私たちとしては若い人たち、65歳くらいの方が役員になって老人会を構成していくような考えをもっており、各集落等もそのような考えで再編成してほしいという気持ちでいる。

地域の老人会ということで、私たちもいろいろな事業を行っている。それを各集落なりで作っていただければ、それが一つの地区老人会・地区の組織ということで、高齢者老人組織の再編に繋がるのではないかと。

何か機会があれば、参加してみたいと思っている高齢者はたくさんいると思う。そのため、組織の中で声掛けをすることによって、高齢者が地域等に参加できることがよいのかと思っている。組織づくりをして、地域の行事にも、組織として参加すれば出やすいのかと思う。

【保坂副会長】

「ENJOY35」は、若い人たちを中心に活発に活動しておられる団体だが、活動を思い立った経緯や、現在の活動状況等、紹介していただきたい。

【ENJOY35 石黒氏】

もともとは「ENJOY35」という名前ではなかったが、この活動を立ち上げたきっかけは、地域活動支援事業である。

三郷地区には「こどもの家」がなく、その当時は放課後児童クラブもなかったため、子どもたちが集まる場所がなかった。そのため、何かしたいと思っていたところに地域活動支援事業があったので、それを活用して、公民館に夏休みに集まった、ということが始まりである。

その後、スタッフをしていたママ友の仲間が、「子どもたちだけではなく、自分たちも何か楽しいことがやりたい」ということで、いろいろな講座を行う等していく中で現在の

「ENJOY35」はある。来年度から地域活動支援事業がなくなってしまうため、今はこの先どうやって活動していくのか、頭を悩ませているところである。

【竹内会長】

「ENJOY35」は、地域活動支援事業を活用し、これまで活動を継続されているのをずっと見てきた。大変に頭が下がる思いであり、これからも一緒に頑張っていきたい。予算化については、地域協議会としても相談にのりたいと考えている。

【三郷地区農政対策協議会 尾崎会長】

当協議会は、「適正な農業所得の確保」ということを第一目的に活動している。「儲からない農業」とずっと言われており、米の販売代金だけだと、生産費を引いて赤字になってしまう。国等の交付金があるのでなんとかやっているといるという状況である。

その中で、三郷地区の圃場整備事業が採択され、令和5年度から工事に入る予定である。大

規模圃場整備をすることによって、いかにコストを下げるかということになるが、それには人間の手、担い手が必要になる。若い世代の方々から手伝ってもらえるような策を講じていかなければならない。農業にはたくさんの課題があり、若者をどのように取り込んでいくのか、皆さんから知恵や協力をいただきたい。

先ほど、体育振興会主催のイベント参加について話があったが、参加したくてもちょうど農業の繁忙期と重なっているため、出ることができないという时期的な問題がある。

回覧版も見るが、情報が多岐に渡っており、イベントだけを覚えていて、そこに参加をしようとはならない。そこに農作業なども重なってくると、非常に参加しづらい。

【竹内会長】

農業に関する課題が、ひしひしと伝わってくる。これは、皆が感じていることだと思うので、今後も圃場整備事業の進捗状況等に目を向けていただければと思う。

【三郷長生会 小竹幹事】

今ほどの農業の現状に対する意見については、全くそのとおりだと思う。

多面的機能支払交付金の活用について、これは農業者以外の老人、子どもといった全世代、集落全部を対象とした交付金である。私の町内では、子ども会、老人会、勤めている人も含め、それなりに活動しており、交付金をもらって動いている。このような交付金を三郷地区全体でも活用すればよいのではないかと。全世代で動けるものとしては、多面的機能があり、その中に廃品回収や地域のごみ拾いとか環境保全、生物調査等、いろいろな項目があるので、それらを使っていけばよいと思う。

【竹内会長】

今、市の農村整備課でも、これの広域化を推進しているので、三郷地区全体で取り組むことができれば、広域化という話にもつながっていくのかと思っている。個々に活動している組織と横の連絡を取りながら、そういった話もしていけばよいかと思っている。その中で、農政対策協議会といろいろなかたちで組んでいけばよいのかと思う。

【三郷まちづくり振興会 平田会長】

参考資料の「地域活性化の方向性」の中で、名立区の「次代の名立区を担う人材の育成」や「若い世代も一緒になったまちづくりの取組」「いつまでも安心して暮らすことのできる福祉の充実」「地域全体での支え合いの推進」ということは、三郷地区としても参考になるように感じた。

②「三郷区の良いところ、魅力について」

【三郷小学校PTA 小竹副会長】

三郷の良いところとしては、「風景」が一番良いかと思っている。何もなく開けており、山並みも綺麗に見える。わがまち三郷再発見マップでも最初にこの景色が掲げられているのを見ると、やはり一番の売りはそこなのかと思う。この風景が維持されるようなかたちで、まちづくり等が進んでいけばよい。

【竹内会長】

マップには「このような偉人がいた」等、示されている。本日の出席者の中にも何人かマップ作成の実行委員がおられるが、苦勞して資料集めをする等して完成させた。

最近、中川市長は「お宝」という言葉を発している。「地域のお宝を探してください」というような発言をしている。

【三郷地区食生活改善推進委員 保坂氏】

田んぼの土手にコスモスを植え、少しずつ増やそうとしている。三郷保育園からカーブを描く道路では、軽トラックや乗用車が三回くらい転落し、側溝が壊されたことがあったが、そこにコスモスを植えてみたところ、少しずつだが、そこで車がスピードを緩めて通ってくれるようになり、よかったと思っている。

また、別のもう一箇所では、妙高山の写真を撮る際、コスモスが入るように撮影している人を今年、初めて見かけた。

このように、何か違ったものがあるだけでも、少し足を止めて写真を撮ってくれる人がいるのだと認識した。今の季節は、白鳥が飛来しているため、それを見に来ていた家族も見かけたことがある。そのようなものがあるだけでも、少しずつでもこの辺りが活性化するかもしれない。「住んでもよいのではないか」という気になってくれる人たちの、ちょっとした魅力が何かあってほしい。空の雲にしても、そこで写真を撮っている人をたまに見かける。障害物がないだけで、写真スポットのようなものにもなるのではないかと思った。

【上越市防災士会三郷支部 浅野氏】

先ほどから話が出ているように、何もないことが一つの魅力なのかと思う。

三郷地区は新幹線の最寄り駅まで10分で行けるため、立地的に非常に恵まれていると思う。何かこれをうまく使う方法が出てこないのかと思っている。

私が勤めていた頃は、東京やつくばに出張をする際は、いったん直江津まで行って、そこから越後湯沢で乗り換えていたため、煩雑な手続きを取っていた。現在では、つくば辺りでは日帰り出張となる。新幹線か、何がよいのか分からないが、そういったものを使い、もう少し三郷地区をアピールする方法がないかと思っている。

防災士会としては、11月の頭に地域協議会会長や各町内会の協力を得て、防災訓練を行っている。また、過去には小規模な防災訓練や避難所開設訓練も行っている。昨今の情勢では、規模の大小を比較することが難しいため、今後はその辺をどのように考えていけばよいのかという課題もある。

防災面で考えたときに、三郷小学校の存続・統合の問題が出てきている。その中で、三郷小学校の跡地の利用について、今後どのように考えていかなければならないのか、という課題もある。防災拠点にしていくのか、であれば普段から使っていなければ、いざという時に集まって避難をしても使い物にならない、ということになり全く話にならない。拠点としての意味合いがなくなってしまうため、もう少し広い意味で三郷小学校のことも考えていかなければいけないのかと思っている。

【竹内会長】

小学校の適正配置問題については、いろいろと新聞等でも取り出されており、なかなか難しい問題だと思っている。

【三郷地区体育振興会 小竹会長】

三郷小学校の跡地の利用と公民館の建設と二つあり、一つは「作る」、一つは「なくなる」ということであれば、それらを一つにして三郷小学校を有効利用すれば、体育館も使え、避難所にもなる。図書室もあるので、公民館意見書に添付されている資料の地域住民アンケート結果の要望を見ると、三郷小学校の建物が一つあれば、ほとんど全ての機能が間に合ってしまう気がする。三郷小学校の利活用を考えると、もっと良い公民館ができるような気がするが、その辺を今後、検討いただくわけにはいかないのか。

【竹内会長】

公民館への意見書の提出に基づいて、小学校の適正配置の問題が浮上してきたことは確かだが、地域協議会としては、飽くまでも適正配置は適正配置、公民館新築は新築、という別件で考えている。「統合ありき」ではなく、公民館は「公民館新築」の話で進めていくということである。そうしないと、公民館の新しい活性化のあり方を考えることができなくなってしまう。地域協議会委員の中でもいろいろと模索した中で、今回は、飽くまでも公民館の新築に向けて意見書を出すこととした。

タイミングが来れば、今ほど小竹会長がおっしゃったかたちの中で、当然、協議をしていかなければならないと思っている。

統合問題に関しては、最終的に地域協議会に諮問が来る。それに対しては、答申として返さなければならないが、地域協議会が「支障なし」とすると、本当に統合になってしまう。三郷の小学校がなくなるというタイミングにもなってきたため、我々も十分、承知しているところである。今後とも、いろいろなかたちの中で協議していくことができればよい。

小学校の統廃合については、地域協議会も教育委員会の説明は聞いているが、細かい話は聞いている。教育委員会の説明を聞いていると、すぐにでも統合できるような言い方をされる場面もある。だが、地域としては、まだゴーサインを出しているわけではない。保護者の立場からすれば、子どもの教育を考えると統合ありきなのかということも考えなければならないかと思うところもある。

【三郷小学校PTA 小竹副会長】

統合について、現状としてどこまで進んでいるのか報告する。

保護者を対象に、何度か説明会等を開いてアンケートを取った。

今後、児童数減少により複式学級が恒常的に発生する状況になる。その中で、統廃合をしたほうがよいのではないかということで、話を進めてきた。

教育委員会からも説明があり、PTAの中では統合する方向で進んでいる。現状、どの小学校と統合するのかといった話まで進んでいる。それを受けて、教育委員会から地域住民に説明があると思う。

まず一つは、子どもの教育環境の充実である。それだけではなく、例えば、イベントに関しても、人数が少ないといろいろとできないことも出てくる。他所と同じことをやる必要もないと思うが、かといって、「他の学校ができていて、三郷小学校ではできていない」というように、子どもたちにはかわいそうだと思う部分も多々出てくるので、そういったところも踏まえて、統合はやむを得ないかと思っている。

明日か明後日くらいに保護者宛に「統合するのであれば、どの小学校がよいのか」というアンケートを取る予定である。今のところ、和田小学校か南本町小学校が統合先の候補となっている。これと同様のアンケートを、今後、三郷小学校に入学してくる三郷保育園の園児の保護者にも取る予定である。

この結果に加え、これまで何回か話し合いを進めてきた中で、皆がどういったことを不安に思い、何を聞きたいのかということを受けて、それらについて教育委員会を通して答えていただく。また、和田小学校、南本町小学校からも答えていただいて、最終的にどちらがよいのかを保護者に判断していただくという作業が、これから出てくる。

年内にPTAの方向性が決まったとしても、最短でも、あと2、3年はかかるところである。その間に、地域住民にも判断というか、学校が空いた後のあり方等を検討していただければ

ばよいのかと思っている。今後、小学校の適正配置問題については、ものすごく盛り上がってくるのではないかと考えている。地域協議会としても、特に注目していくべき課題かと思っているため、慎重な協議をしていただきたい。

【竹内会長】

本日いただいた地域課題、三郷区の魅力については、今後、地域協議会で議論をしながら、地域活性化の方向性作成に向けて取り組んでいきたいと考えている。

たくさんのご意見をいただいた。これから慎重に考えていかなければならない問題もたくさんあるので、一緒に協議していければよいと思っている。

第8回三郷区地域協議会における自主的審議事項に関する意見

平田伸一委員

- 春駒班については、まだまだやらなければいけないことがある。
- 公民館班については、ゴールはどこまでなのか。私たちの地域協議会としての任期（令和6年4月末まで）もある。何を、どこまで求めるのか。よく分からない。
- 春駒班も同様に、どこまでやるのが私たちの仕事なのか。正直、春駒班は作業部隊になっており、事業を実施する側になっている。やり方も含めて、どの辺がゴールなのか、話をしていかなければいけないと思う。
- 私たちは、再来年の任期が切れるまでに、各自が納得できるものを、やれる範囲でやるしかないのかと思う。任期以降は、当然、委員の顔ぶれも変わり、考え方なども違うと思うので、そこで改めて協議をして決めていく話なのだと思う。
- 公民館班については、本日の議題である、小学校の統廃合の話が出てきているため、教育委員会として考えた場合、統廃合で三郷小学校がなくなった後に、その施設をどうやって運営・管理していくのかを考えた時に、公民館の機能を移すということも、考え方としてはあると思う。ただ単に公民館だけを新設要望をしていても、なかなか違う方向へ行ってしまうような不安がある気がする。
- 春駒については、自主的に保存できる団体が育ってきてほしい、という思いである。地域協議会としても可能な範囲でやるが、そうなってほしい。

市村委員

- 自主的審議が終わった段階で、地域がより活性化することがゴールだと思っているが、公民館も春駒も、それが終わった時に本当に地域が活性化できるのか、と言われると正直、この議題を決めたところから疑問であった。この二つの題材で「ゴール」と言われても、すごく難しいかと思う。そのため、どこかで一区切りについて、「本当に地域活性化するために、どのようなことが必要なのか」ということは、改めて考える必要があると思っている。

伊藤光夫委員

- 公民館班も春駒班も、意見書を作るなどある程度、考えがまとまってきたと思う。地域協議会としては、まだまとまってはいないが、この二つを続けていってよいのか、他に自主的審議として取り上げるものがあるのではないかと、という気もするため、どこかで区切りをつけてもよいと思う。
- 11月29日に地域団体等との意見交換会実施の案も出ているため、そこをスタートとして、いろいろな意見を聞きながら、新しい方向に進んでもよい気がする。

小山委員

○公民館班については、新しい公民館が建った時点でゴールのような気もするが、春駒班に関しては、終わりが見えないように思っている。伝承・保存というかたちであれば、一人でも多く、踊りを覚えてくれる人が出てきてくれた時点で、それが一つのゴールになるかとも考えている。

平田清委員

○公民館班については、ここで一度ゴールにしてもよいのかと思っている。最終的に公民館ができあがり、それを見て、本当によい結果になっているのか、というところまで検証することが、本当の意味でのゴールだとは思う。ただ、それがいつになるのか、そのゴールが見えない。いつ公民館が新しく立ち上がるのかということも見えず、場合によっては「三郷小学校の跡地を」といったことも多分、今後は出てくるように思う。それをずっと追求しては、いつまで経っても終わらない。そのため、新たな問題点等、検討する事項が出た時点で、もう一度、自主的審議事項としてやってもよいのかと思っている。

○春駒班については、私もどこをゴールにすることがよいのか見えない。だが、少なくとも、来年度にCDを作る、という方向に持っていきたいのであれば、全体のある程度の目途が立たなければ、それをゴールにしてよいのか、はっきりとは言えない状況である。

山口委員

○残りの任期中、公民館について延々と審議するというのも一つの考えだとは思う。今後、意見書に対して市からどのような回答が来るのか分からないが、公民館班としてはここが一つの区切りかと思っている。

○小学校の統廃合の話が出てきている。その跡地利用については、資料にも記載されているように、教育委員会もいろいろと言っているため、当然、跡地や建物の利用について考えなければならない時期が来ると思う。その時が私たちの任期中であれば、自主的審議事項とする、又は次期委員に申し送りをするということも一つの方法だと思っている。

○春駒班については、団体が立ち上がったときがゴールだと思っている。自主的審議事項について、これから審議するが、そういったことも含めて、また新たな掘り起こしがあってもよいと思う。

吉田委員

○公民館班について、市から回答をいただけるということであるので、その段階で一区切りと言えらると思っている。短期的には、次期財政計画の施設の建替えが決まった際には、市からいろいろと調整があると思っている。その時はそれに応じるということで、とりあえずは小学校の統廃合等、いろいろと課題が見えてきたので、新しい課題に取り組むということも考えの一つかと思っている。

渡部委員

○春駒班については、実行委員会として動いていけば、地域協議会の自主的審議事項として協議しなくてもよいと思っている。メンバーは一緒であるが、実行委員会として動けばよいと思っている。今、一番の課題である小学校の統廃合について、もっと皆の意見を聞くような取組をしていくことが、残りの任期中にできることなのではないかと考えている。

伊藤副会長

- 公民館班としては、意見書を2回出しているため、ある程度が目途が見えていると思っている。公民館の建替えについては、令和5年度からの財政計画に載ることであるため、案が出た時に課題等が出れば、その時に改めて自主的審議事項として取り上げて、意見書なりの方法としていけばよい。
- 春駒班としては、正直、なかなかゴールが見えないということもある。だが、三郷まちづくり振興会の中でしっかりと保存会というものができた段階でそちらに移行して、地域協議会の自主的審議事項としては一区切りとして良いと思う。

竹内会長

- 公民館班は市の回答待ちでもあることから、今後は小学校の統合に関係して小学校跡地についても話題となってくると思う。これも課題にしながら自主的審議に取り加えていくことも考えの一つである。
- 春駒班については、伊藤副会長の発言にもあったように、やはり他の団体が受け継いでくれるというところが、一つの大きな力なのかと思っている。
- 公民館に関しても、三郷まちづくり振興会が毎年、要望書を出しているということもあり、ある程度、行動してくれる団体があるということは非常に力強い。そういうものが常に地区の中で継続して動いている、というところが力強いと思っている。そういった火を消さないような活動も地域協議会委員の役目だとも思うので、バックアップ等もしていくことができればよい。
- 今後、二つのグループに分かれる自主的審議事項の運営の仕方もそうだが、全体での審議の体制についても重視していかなければならない。
- 小学校の統合問題についても、今後、小学校が無くなることによって、地域のもの欠けてしまうような気がしないでもないが、それが自主的審議事項の一つの課題なのかと思っている。